

# 月刊 まち・コミ

## 2010年1月号

● インフォメーション ● <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>

1月16日(土) 関西テレビ 15:00 前後に、御蔵地区が放送されます

1月17日 NHKラジオ第1 午前5時15分からの番組で、顧問の田中保三が取材を受けました



● 今月の注目記事 ● P1~P3 御蔵の復興まちづくりを振り返る

## 御蔵の復興まちづくりを振り返る

阪神・淡路大震災から15年

阪神・淡路大震災で、8割全焼という被害を受けた御普西地区(長田区御蔵通5・6丁目と北町の一部)。地区内にある334棟のうち、242棟が全壊、34棟が半壊認定を受け、被災率は83%。被災地の中でも、大きな被害を受けた地区の一つに上げられます。

震災から2ヶ月後の、3月17日に震災復興土地区画整理事業地区に指定され、4月23日に御蔵通5・6丁目町づくり協議会(白崎弘二会長、後に田中保三会長、以下まち協)を設立。まち協の構成員は、エリア内の住民と事業者、関係権利者(地区外権利者も含む)で、復興まちづくりの中で重要な役割を担ってきました。2001年6月には、震災で一時休会を余儀なくされていた自治会が復活。その後、2005年3月24日、区画整理事業は神戸市による換地処分の公告をもって終了しました。

まち協はその後も、地域の魅力づくりを目指して活動を進めていましたが、自治会からの存在価値を疑う声が大きくなり、2006年12月に解散。現在地域での盆踊りや餅つきなどの地区内行事は、自治会で行われています。

震災から15年を前に、御蔵通5・6丁目のまちづくりを振り返ります。



御蔵北公園予定地にてイメージづくり



御蔵通5・6・7丁目自治会館

## ハードの事業

まち協は、道路と公園づくりの検討に入るため、トータル約350回にも及ぶ会議を重ねた。また、役員らは区画整理事業やまちづくりについての情報が集まりにくい中、講演会などにも足を運び自ら行動し情報を得ながら、今後の方向を模索。“一人でも多くの住民に早く戻ってきてほしい”と、地域で検討し決定していくというプロセスを繰り返した。まちの将来像を決める「まちづくり提案」を決めるに際し95年9月、対象者444人に対しアンケートを送付。232人から回答を得た。この頃は長田区役所や相談所など、集まれる場所を転々としながらの会議だったが、1995年12月にプレハブの新集会所が完成し、地域の拠点ができた。会議の結果や、次の集まりについては、まちづくりニュース「ひこばえ」(全34号+特集号)にて報告された。

1997年1月14日に事業計画、同年11月27日に地区計画が決定した。1998年1月8日から仮換地指定が開始し、そこから順次、地域内で再建することを決めた人々は、やっと自分の土地が決まることになる。古民家を移築して建てた「御蔵通5・6・7丁目自治会館」は、2004年1月17日に竣工。換地終了は2005年3月、この日以降、土地の購入者が住宅を建てたり、住宅メーカーによる建て売り住宅を作るなど、町並

みがどんどん変わってきた。(現在の再建状況は、「月刊まち・コミ2009年10月号」参照)

まち・コミは、まち協のサポートをし、共同建替住宅建設へ向けてコーディネートも行った。12人の権利者が関わる「みくら5」が、1999年12月に完成した。

## ソフトの事業

少しの時間であったとしてもまちに戻って集える機会を作るため、七夕まつり、盆踊り、餅つき、慰霊法要などを開催。盆踊りは、本場河内から鉄砲光丸氏を始め、複数の連(グループ)がやってきて、1995年から2006年まで地域を盛り上げた。

地域の女性が中心となり「みくら5・6・7丁目わが街の会」(竹内千恵子会長)を結成。“支え合い、響き合う地域社会を”を合言葉に、人とのつながりを大切にしたい町を取り戻すため、地域の住民の集いの場を提供してきた。また、将来的には高齢者のケアも地域の中ですることにも想定した活動をした。「当時は一生懸命だったから、いろんなアイデアが出ました」また、「活動の中で、“来る人は来る、来ん人は来ん”という、震災後熊本県天草から法話に通って来てくださった曹洞宗僧侶の荒木正昭師の言葉が支えになりました」と竹内さん。特にソフト面では、個人の力も大いに発揮され、支えられてきた。



御蔵南公園の植樹



1998年12月 もちつき



また、2000年にはみくら5の1階を拠点に地域の人々の集いの場として「プラザ5」(上田諭信代表)ができ、2005年まで活動。ふれあい喫茶や食事会、ミニデイサービス、絵手紙教室、落語会などを行った。

まち・コミュニケーションの主催では、文化人らを招いてお話をしてもらった「御蔵百聞倶楽部」、歌手の李浩麗さんと子どもの頃に歌ったなつかしい歌を楽しむ「唱歌の会」など、行事を開催することで、町の魅力を増やし“このまちに住んでよかったな”と思えるまちづくりをしてきた。

どんなに地域がきれいになり、道路や公園ができて、“仏作って魂入れず”と言うように、人に活気が戻らなければ、いい町にはならないと思い、それぞれの自宅や職場の再建と並行してまちづくりに取り組んできた。

### 「自分たちのまちは自分たちの手で」

公園の花壇づくり、芝張り、慰霊碑のコンクリート打ち、コミュニティ道路のブロック張りには、本来業者まかせにするところを、住民らで関わるところは作業に関わり、地域に愛着が持てるまちづくりを目指してきた。計画段階でも、他地区に見学に行き、自分たちのまちに作ったときのイメージをふくらませ、検討した。また、

自治会館の建設においては、住民だけでなく、多くの学生ボランティアも関わって、大事業を成し遂げた。

まちづくりコンサルタント以外にも、地域づくりに関わる専門家にも意見を聞き、アドバイスをいただいた。「内外問わずネットワークを作りながら、イエスからの発想で行動すれば何かに当たると、信じてまちづくりを進めてきました」と元まち協会長の田中保三さん。

### 近年の様子

竹内さんは平成12年4月から、グループの名称を我が町の会から「萌の会」と変え、対象エリアを広げ、お花見やお月見の会など、季節の行事を開催している。

自治会は、地域の親睦を図る行事や町内清掃、公園の手入れ、年末防犯などを実施。

まち・コミは御蔵地区内では、修学旅行生への震災体験学習の受け入れを継続するとともに、これまでのまちづくりの記録作りを進めている。

まち協がある時は、地域内の団体が、それぞれの得意分野で協力しあって行事を開催することが多かったが、現在は各団体がそれぞれに事業を展開しているのが、2007年以降の傾向といえるだろう。それぞれが自分たちでできるまちづくりを模索し、実行している。



慰霊碑コンクリート打設



萌の会での集い



## 須磨区で被災、御蔵通で暮らす娘さんを失った 寺田孝さん

震災当時は、神戸市須磨区で一人暮らしをしていました。家族は、息子一人、娘一人です。1995年1月16日の晩はなかなか寝られず、時計を見たら1時。開き直ってコーヒーをいれ、ラジオをかけて、深夜放送を聴いていました。布団の中でうとうとしている状態のときに、ぐらぐらと大きな揺れがきました。私は空手をやっていたので、反射的に、足下が揺れていても立ったままでいられる型で立ち上がりました。立った瞬間、整理ダンスが倒れてきて、右耳を直撃しました。これが原因で、右耳が聞こえなくなってしまうりましたが、もし寝たままでいたら下敷きになっていたと思います。ダンスの下は、ステンレスの灰皿がべちゃんこになるほどの重みでした。

自宅からは自力で脱出でき、すぐに兄と二人の姉の安否確認に回りました。それぞれ全壊、全焼、半壊といった被害を受けましたが、みんな無事でした。その後、娘がいる御蔵通5丁目に行きました。娘が暮らすアパートはすでに焼け落ちていました。なぜ最後に来たんだろうと悔やまれましたが、娘は逃げていると信じていました。

それから数日、空手の門下生や友人に助けをもらいながら、娘を捜し回りました。娘を見かけたという噂を耳にし、希望が湧いてきたこともありましたが。けれどもいくら探しても見つからない。1月20日まで待ちましたが、何の連絡もない。いやな予感がしました。探していない場所は、アパートしかありません。21日になってアパートから娘の遺骨が見つかりました。

私を支えてくれたのは、門下生と友達です。彼らにとっては当たり前のことかもしれませんが、祭壇を用意してくれるなど、私の気持ちを汲んで動いてくれました。海外の門下生も何人かは、はるばる日本まで来てくれました。

それでも、立ち直るのには10年かかりました。娘の死をなかなか受け入れられなかったのです。その間に、四国八十八箇所巡礼を始め、今でも続けています。10年経った頃やっと、娘に会えることはないと思えるようになりました。そして、娘の死を無駄にしたいくないその思いから、自分も何かボランティアができるんじゃないかと思うようになりました。

昨年秋から語り部をしています。まち・コミの震災体験学習を見学に行ったとき、急にマイクを渡され、娘の話をとられたときに吹っ切れたと思います。それまではまだ、生徒達の前で娘のことを話そうという気持ちにはなっていませんでした。

生徒達には、友達を大切にしてほしいと思います。私は友達に助けられました。「貸した恩は忘れても借りた恩は忘れるな」をモットーにしていますので、震災1年後、海外7カ国の門下生の元にお礼をかねて空手の指導に回りました。友達のほか、親子や兄弟との絆も深めてほしいと思います。そしてもう一つ、自然災害で命を失わないでほしい。自然災害は知識や心構えである程度は回避できます。震災学習で聞いたことを忘れず、いつ地震が起きても対処できるようにしてほしいです。 【取材 戸田真由美】





お知らせ

2010年1月17日（日） 早朝からお待ちしております

1月17日で、震災から15年を迎えます。

まち・コミュニケーションではスタッフ一同、午前5時46分を慰霊の気持ちで御蔵北公園(まち・コミュニケーション事務所のすぐ南)にて迎えます。

その後、6時ごろからは事務所内にて、来訪者のみなさまをお待ちしております。震災を語り、近況を報告し合うなど、まち・コミに関わるみなさまの交流の場にもなれればと考えております。

ご都合がよろしければ、ぜひお越しくださいませ。



2007年1月17日 朝の様子

## 大地のつぶやき

〈 出石農園今年の作業を終えて 〉

十一月二十二日たまねぎの苗約一万四千本を総勢七人で植え、十二月六日にその欠株を補植し、これで今年の農作業は全て終わりました。今夏はまち・コミ代表の宮定君が六月〜八月のほぼ三ヶ月を台湾での古民家移築作業の陣頭指揮を執り日本を留守にしていた。私も盆休みを台湾での作業に加わり、その前後にゲリラ豪雨に襲われた佐用町に泥かきボランティアに通い出石の農園がすっかり手薄になった。秋の丹波黒豆の収穫は無残なものでした。雑草の中に黒豆の枝があり、それでも雑草と競い合い負けてたまるかと悲壮な声が聞こえそうな位雑草をしのいでいる枝も沢山ありました。一方雑草に競り負け、低迷し小さくなった存在感のない枝もまた多く、敗北感が漂っている雰囲気には心が痛んだ。自然の節理が働いているのか、人間の叡知の届かない所で神秘的な気配がし感傷的にもなった。出石通いが途絶えた言い訳はしたくないが「畑は人の足音を聞きたがっている」とは蓋し名言ですね。天候にもよりますが、やはりどれだけ畑に愛情を傾注出来たかの問題でしょう。畑の野菜の育ちは子育てと全く同じで、どれだけ真剣に向き合えたかなんです。皆様にもっと丹波の黒豆を食べたい欲しかったのですが去年の半分以下の収穫では如何とも仕方ありません。悔しい思いで一杯です。

この但馬の美しい森や山や川、そして海へと流れる水。豊かな大自然の中での畑、たまねぎの苗を植えながら、よしやるぞ！ 来年こそは！は念じていました。そして来年を期待して下さい。

但馬の有機農法は掛け替えない役割を果たしています。食は命なり、口から入るものは医者でもあり薬でもあります。医食同源、身土不二、農家の方が心を込めて育てた旬のものを食べましょう。来年も出石産直のたまねぎ、じゃがいも、黒豆等々をよろしくお願い致します。

株式会社兵庫商会 田中保三



# まち・コミ活動報告

12/1 ~ 12/31

- 12/1 台北市政府 災害防救中心主任来訪
- 12/3 月刊まち・コミ 11月号12月号印刷発送作業
- 12/6 出石市民農園たまねぎ補植
- 12/8 JICA研修受入
- 12/9 まち・コミ打ち合わせ
- 12/9 寺田孝さんヒアリング
- 12/10 まち・コミ運営委員会
- 12/11 台湾大学院生訪日団受入 (財団法人交流協会東京本部)
- 12/12 神戸松蔭女子学院にて講演 (阪神・淡路大震災15年とこれからのまちづくり実践報告・田中)
- 12/14 神戸市広報による取材
- 12/14 小野宗幸氏来訪
- 12/16 まち・コミ打ち合わせ
- 12/17 月刊まち・コミ11月号、12月号メール配信開始
- 12/19 事務所内ネットワークの改善作業
- 12/20 まち・コミ記録誌事務局 会議(第1回)
- 12/20 東京大学佐藤慶一氏受入
- 12/23 こうべあいウォーク打合せ
- 12/24 月刊まち・コミ印刷
- 12/27 震災学習下見(大津小学校)
- 12/28 月刊まち・コミ1月号 発送作業
- 12/29 出石市民農園

## ご支援、ありがとうございます。

12/1 ~ 12/18

### 賛助会員(新規・継続)

- 藤原公夫(大阪府) 島田誠(兵庫県) 上田耕蔵(兵庫県) 播本高志(兵庫県) 成田千尋(兵庫県)  
 尾崎裕子(愛知県) 越山陽子(兵庫県) 小林由佳(神奈川県) 山田和生(兵庫県) 和田幹司(兵庫県)  
 川村武也(兵庫県) 森山正和(兵庫県) 野崎瑠美(兵庫県) 野口磐之(兵庫県)

### 協力

社団法人シャンティ国際ボランティア会(東京都) 株式会社兵庫商会(兵庫県) 【順不同・敬称略】

## 新規賛助会員募集&更新のお願い

まち・コミでは、さらに活発に活動を行うため、賛助会員を募集し、金銭面でのご支援をいただいております。会費は、事業推進のために活用させていただきます。賛助会員のみなさまには、会員特典をご用意しておりますので、ぜひ賛助会員への登録をお願いいたします。

また、賛助会員は1年更新とさせていただきます。現在賛助会員の方も時期がきましたら、更新をお願いいたします。(期限は、「月刊まち・コミ」郵送時の封筒の、宛名の下に記載していますので、ご確認ください。)

### 会員特典

本誌「月刊まち・コミ」の送付。

まち・コミュニケーションに関する、Eメールでの情報送付、WEBの特別ページの参照

よろしくおねがいいたします。

編集後記 阪神・淡路大震災の情報を集めたホームページ「震災発」(<http://kobe117.ciao.jp>)で、まち・コミのホームページとブログをリンクしてくださっています。ありがとうございます。(戸)

### 年会費

- 個人・法人 年間5000円
- 学生 年間3000円

### 郵便振替口座番号

00950-3-42788

### 口座名称

「まち・コミュニケーション事務局」

2010年1月1日発行  
 編集/発行 まち・コミュニケーション  
 定価 100円

**御蔵事務所** 〒653-0014  
 神戸市長田区御蔵通5-5  
 TEL 078-578-1100 / FAX 078-576-7961

**東京事務所** 〒162-0052  
 東京都新宿区戸山1-24-1  
 早稲田大学文学部浦野研究室内

**神奈川事務所** 〒214-8580  
 神奈川県川崎市多摩区東三田2丁目1-1  
 専修大学文学部大矢根研究室内

e-mail [m-comi@bj.wakwak.com](mailto:m-comi@bj.wakwak.com)  
 URL <http://park15.wakwak.com/~m-comi/>